観音寺で除幕式
香川３基目の憲法９条の碑建立

香川県内で３基目の憲法９条の碑除幕式が３日、観音寺市出作町の三豊教育会館で開かれました。「三豊・観音寺に憲法９条の碑をつくる会」が企画し、８団体と１００人近くの個人寄付が集まり、９条の碑を建立しました。

昨年11月に、安藤利光前綾川町議宅で１基目、同12月に高松平和病院前に２基目が建てられました。

碑は、戦争放棄を掲げる１項と、戦力不保持と交戦権否認を定めた２項の全文を中心に刻んでいます。また、「平和が長く続きますように」「さぬきうどんはコシが命、２枚腰、３枚腰で平和を守る」と願いを込めた「うどん」と男女がハートを抱きしめるシンボルや、碑の裏面には「子どもたちを再び戦場に送るな！」のメッセージが刻まれています。

約60人が参加するなか、森川義弘共同代表が挨拶。「９条を１字たりとも変えさせずにきた。これからも一人一人が頑張っていく」と決意を述べました。

代表８人が、「戦争反対、９条守れ」の非戦の誓いの思いを込め除幕をしました。国際ジャーナリストの伊藤千尋氏が前日の２日には同教育会館でプレ講演。３日の除幕式で伊藤氏は来賓あいさつし、トークタイムなどの企画がありました。伊藤氏によると憲法記念日の３日、観音寺を含む全国６カ所で除幕式が開かれ、憲法９条の碑は現在、全国で59基です。

有志による「ひめゆりの詩」の合唱と、全員で「よろこびの歌」を歌い序幕式を祝いました。

いま社会保障はどうなっているのか
医療現場からの現状報告【厚労省レクで伝える】

香川県保険医協会副会長　藤原高明

四国４県の保険医協会は全国保険医団体連合会・四国ブロック協議会として様々な活動を行っています。

４月10日、厚生労働省レク（レクチャー）に四国ブロックとして参加し、事前のアンケート結果（後述）と要請書を送付、厚労省の考えを聞いてから質疑応答を行い、医療現場の状況や率直な意見を伝える行動を行いました。

要請書の内容は３点で、①マイナ保険証の実質義務化を止め健康保険証の新規発行再開を求める、②高額療養費制度「見直し」は「見送り」ではなく撤回を求める、③診療報酬の期中改定と不合理是正を求める、というものです。

マイナ保険証の問題は、１月29日から３月15日に保険医協会会員に行ったアンケート結果を元にまとめたもので、マイナ保険証によるトラブルは88％に起こっており、資格情報が無効、負担割合が誤っているなど、これまで指摘された問題が解決していないことを指摘しました。また、回答のうち３分の２がこれまでの健康保険証の復活を求めている現場の声を伝えました。

高額療養費制度を25年８月から引き上げる方針の「見直し」をいったん「見送る」としましたが、がんなど継続的な治療が必要な患者が多く、「撤回」すべきであると求めました。

診療報酬の問題では、財務省主導の医療費抑制政策を抜本的に転換することが必要であると求めました。また、高血圧や糖尿病などに「生活習慣病管理料」を算定すると、がん患者の定期検査が病院負担になるなど、矛盾点が多く早急に対応すべきあること、医療費は公定価格のため物価が高騰しても値上げができず、多くの医療機関で経営危機が起きており、医療従事者の賃上げにも対応できておらず、早急に対応が必要であると強く要望しました。

「日本被団協」がノーベル平和賞を受賞
香川の一会員として今思うこと⑧　藤井　明

地球に生きている人はみな「被爆者候補」だ！！更に今、新たな「危険性」も

確かに、技術的な進歩による安全性の向上もあり、事故が起きる確率は減少していると言われています。また、近年の核兵器は潜水艦など海上に配備されるものとなったため、飛行機で運搬中の事故も可能性は低くなったとの見解もありますが、しかしその一方では、高度な自動化により、冷戦時代には考えられなかったような新たな危険性が生まれています。

まず指摘しなければならないのは、核兵器の製造・管理から始まって、攻撃の探知及び反撃のシステムその他に対する「サイバー攻撃」の可能性です。核の管理システムに誤作動を起こさせる類の攻撃に対し、核兵器は極めてぜい弱だというのが大方の専門家の見解です。しかも、現代は国家がサイバー戦争に非常に多くを投資している時代です。サイバー空間は新たな戦場であり、陸・海・空・宇宙などに匹敵する戦争領域だとさえ言われています。

また、最近では、ＡＩに核兵器の管理を委ねる可能性さえ出て来ています。これは要するに、核兵器の発射ボタンを押す判断をＡＩに任せるという事であり、今までの常識では予測できない危険性を孕んでいると言われています。

なお、このような技術の高度化の一方では核兵器を搭載している潜水艦の老朽化によるトラブルや火災発生の危険性も指摘されています。大事故には至りませんでしたが、２００９年には英国とフランスの原子力潜水艦同士が衝突する事故が起きました。また、イギリスではかなりの潜水艦で火災が発生しているとの報道もあります。

人間とその社会において事故やミスは避けられません。その意味で、核兵器は、意図的に使われなかったとしても、存在そのものが、破滅的とも言える危険を孕んでいるのです。この意味でも、地球に住む私たちは例外なく「被爆者候補」だと言わなければなりません。

勇気りんりんエッセイ
参議院比例予定候補　白川よう子

ずっと行きたかった島根県邑南町にある農民連長谷川敏郎会長宅を訪ねました。

アグロエコロジーを実践する長谷川さん。畦や里山の雑草を刈って牛の餌にし、堆肥を作り有機農業で稲作をする田んぼには、蜘蛛の巣が張り害虫を捕らえ、カエルや蛍、赤とんぼが飛び交い、ツバメや鴨などの野鳥がやって来て虫や雑草を食べてくれます。里山の間伐で薪を作り、ボイラーを焚いて暖房や床暖房、お風呂に活用します。無理のない好循環が作られていることを実感します。一昔前には日本で当たり前にあった農村の風景。懐かしさと共に、道理があったんだと再認識させられました。

里山の恵み満載のお料理もごちそうになりました。「ご馳走」は、走り回って素材を用意するという意味だそうで、もてなす相手を思いやる心そのものです。食と農、そして人のつながりが癒しや活力を生み出し、日本の原風景を再生します。

「食料自給率の向上、安心・安全な食料の確保、国土の保全など多面的機能を重視し、農林水産政策の根本的な転換をはかる。国の産業政策の中で、農業を基幹的な生産部門として位置づける。」と、日本共産党の綱領に掲げられていることがいかに重要か、主食である米の現状からもハッキリとみえてきます。

米農家を潰し、米不足をつくる農政を進めながら、国民が飢えてもかまわないと言わんばかりの基本計画を作る自民党政治。今こそ食料を増産するまともな政治が求められています。